

(令和3年01月04日)

< ワンポイントレッスン (実践) >  
( 株価位置からみた二極化 )

今回は、今年の株価の動きを「株価位置」で過去の上昇相場と比べてみました。郵政民営化、アベノミクス、今年のコロナショック後の日経平均の上昇率は、共に40%以上の上昇ですが、去年は二極化が伝えられています。株価位置は、対象とする期間の安値からの直近までの上昇幅をその期間の高値－安値の値幅で除したものです。100%は直近が最高値、0%はその逆で最安値。50%は高－安の中間点に位置することを示します。

下表は、株価位置を4区分、区分該当銘柄数を集計して、構成比を計算しています。対象は、日経平均500採用銘柄。直近時点の採用銘柄なので2005年、13年は500銘柄になっていません。ポイントは、平均株価は3月安値から大きく上昇したのに、今年の分布は見慣れないもの。0-50%ゾーンの銘柄構成比が高くなっています。この二つの銘柄群の違いがどのファクターにあるのか判別してみたいところですが、ここでは割愛です。

ハイテク、半導体関連、DX関連などがこの処の物色対象ですが、新型コロナ感染収束となって出遅れ銘柄を物色する展開となるのか、構造変化を起こしてニフティ・フィフティとなるのか気になるところです。

( 二 極 化 )

	郵政民営化		アベノミクス		コロナショック	
	2005年		2013年		2020年	
株価位置	銘柄数	構成比	銘柄数	構成比	銘柄数	構成比
70%以上	355	81.8	311	64.4	223	44.6
50%~70%	50	11.5	87	18.0	107	21.4
30%~50%	16	3.7	57	11.8	80	16.0
30%以下	13	3.0	28	5.8	90	18.0
合 計	434	100.0	483	100.0	500	100.0
年間上昇率 (日経平均)	40.2%		55.7%		16.0%	
年間変動率 (日経平均)	48.0%		55.8%		46.0%	

All Copyright © ゴールデン・チャート社

注：年間変動率 = (年間高値 - 年間安値) / 前年年末値 × 100 で計算。